



中国の有名文人・詩人・政治家である欧陽修の書簡 96 篇を発見

概要

大学院比較社会文化研究院の東 英寿教授は、中国宋代の文人・欧陽修(1007～1072)の、これまで全く知られていなかった書簡 96 篇を新たに発見しました。欧陽修は千年以上前に生まれた人物であり、もはやこれまで知られていない作品が出てくる余地は全く無いと思われていました。今回発見した書簡は、中国においても台湾においても日本においても、大胆に言えば、現在のところ世界中において、全く知られていない欧陽修の作だと言えます。

なお、今回の発見の詳細な経緯・意義については、平成 23 年 10 月 8 日(土)、9 日(日)に開催される日本中国学会(於九州大学)において研究発表(この研究発表は 10 月 8 日午後)する予定です。

背景

欧陽修は、中国の宋代(960～1279)に活躍し、中国の文章の改革(古文運動)を行い、中国の考古学(金石学)というジャンルを創始したほか、詩の評論(詩話)を中国文学史上初めて執筆したり、今日の随筆という文章形態を本格的に始めるなど、多数の詩文や歴史書も創作した、いわばマルチな文人です。中国においては、中学・高校の教科書において、必ず取り上げられる有名な文人です。こうした中国の偉人である欧陽修の、全く知られていなかった書簡 96 篇が、千年の時を経て今回発見されました。

内容

今回の発見は、中国宋代の書籍の出版状況と大きく関連しています。印刷術が発展した宋代に『欧陽文忠公集』(欧陽修の全集)が、様々な編纂を経て何度か刊行されます。そのうちの一つが日本に伝わり、現在国宝に指定されています。東教授は、この国宝の中にこれまで全く知られていなかった書簡 96 篇が存在することをつきとめました。

効果

中国で有名である欧陽修の未発見書簡が、本場の中国ではなく日本で発見されたということに、強いインパクトがあると思われます。東教授は、去る 9 月 16 日～20 日に中国で開催された宋代文学国際学術研討会(学会)に出席し、10 月の日本中国学会での発表要旨をまとめた文章を中国の学者に説明したところ、その反響は大きなものがありました。中国ではこれまで全く知られていなかった事実であったため、この学会の会長からは、早速、中国の雑誌『新宋学』に詳細を発表して欲しいという要請を受けています。

今後の展開

今回、いわば千年の時を経て、世に出てきた新発見の欧陽修の 96 篇の書簡について、東教授は今後その内容についての研究を行う予定でありあり、様々なことが明らかになっていくと思われます。さらに、今回の発見により、今後様々な研究が関連して展開されることと思われます。

【お問い合わせ】

大学院比較社会文化研究院教授 東 英寿
電話・FAX: 092-802-5639
Mail: higashi@scs.kyushu-u.ac.jp

